

第15次中期3カ年計画

2022年2月1日 ▶▶▶ 2025年1月31日

農業戦略計画 / JA経営計画

ARCH



 JAなんぽろ

ARCH



目次

| | |
|-------------------------|-----|
| 第15次農協事業中期3カ年計画の策定にあたって | 1 |
| 第15次農協事業中期3カ年計画の概要 | 2～3 |

農業戦略計画

| | |
|----------------------------------------------|-------|
| <input type="checkbox"/> 農業戦略計画の概要 | 4～5 |
| <input type="checkbox"/> 米について | 6～11 |
| <input type="checkbox"/> 小麦・大豆について | 12～13 |
| <input type="checkbox"/> 蔬菜について | 14 |
| <input type="checkbox"/> その他の取り組み | 15 |
| <input type="checkbox"/> 環境整備に向けた支援 | 16～17 |
| <input type="checkbox"/> 農業振興策事業を活用した輪作体系の提案 | 18～19 |
| <input type="checkbox"/> 作付計画面積 | 20 |
| <input type="checkbox"/> 販売取扱高目標 | 21 |

JA経営計画

| | |
|-----------------------------------|----|
| <input type="checkbox"/> 事業別計画 | |
| ◎ 資材・燃料事業 | 22 |
| ◎ 信用・共済事業 | 23 |
| ◎ 内部監査・総務事業 | 23 |
| <input type="checkbox"/> 固定資産整備計画 | 24 |
| <input type="checkbox"/> 事業収支計画 | 25 |
| <input type="checkbox"/> 経営諸比率表 | 26 |

第15次農協事業中期3ヵ年計画の 策定にあたって



南幌町農業協同組合
代表理事組合長
林 裕司

わたしたちJAなんぼろは、南幌町の基幹産業であり、人間が生活する上で欠かすことができない食糧を生産する重要な産業である「農業」を営む組合員の営農、生活する上での願いや不安の受け皿としての機能を発揮することはもとより、地域における生活基盤を支えるため、“最幸の信頼・利用・満足を実現し、組合員と地域社会に安心をお届けする”ことを経営理念として事業運営しているところです。

しかし、近年の社会・経済の環境変化はコロナ禍を端として加速しており、農畜産物の深刻な需要減少や、諸外国の食料輸出規制などをうけた食料安全保障への関心の高まりなど、この3ヵ年ほどの間に目まぐるしく情勢が変化しており、国内で生産した農畜産物は国内で消費すべきという考え方“国消国産”を浸透させることが非常に大事な時期を迎えていると考えております。

このような情勢において、第15次農協事業中期3ヵ年計画では、第28回JA北海道大会から設定したJAグループ北海道将来ビジョンを一部見直したうえで継承し、『北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」』に設定した第30回JA北海道大会の決議を踏まえ、この中期計画が明るい未来への懸け橋となることを願い、計画タイトルを『ARCH (アーチ)』と命名し、メインテーマである『環境変化に対応し、将来にわたって持続可能な南幌町農業・農協の確立』を、組合員をはじめJA役職員が一丸となって実践するために策定しました。

国の農業予算も含めた食糧政策等の先行きは不透明な中ではありますが、農業やJA経営の諸課題を解決しながら力強く発展し、これまで幾多の苦難を乗り越えてきた先人より引き継いだ「南幌の農業」をより強固なものにするため、農業戦略計画の確実な実践による組合員経済とJA運営の好循環に向け、組合員との対話を重視し、各関係機関との緊密な連携による生産基盤の安定を目指して事業展開してまいりますので、組合員皆様の特段のご理解とより一層の結集をお願いし、第15次農協事業中期3ヵ年計画策定にあたってのご挨拶とさせていただきます。

第15次農協事業中

第15次中期3カ年計画では、第14次中期計画の内容を検証したうえで考え方に協議を行ない、農業戦略計画では、将来的な需給動向を見据えた農業所JAを取り巻く環境変化、および組合員の要望に応えるべく、農産関連施設の

農業戦略計画を検討するにあたり

- 「南幌町農業振興ビジョン」に係るアンケート調査より農業者各位の将来見通し等の把握
- 各生産部会代表者との意見交換による要望等の聞き取り
- 第30回JA北海道大会「組合員組織討議」より今後の動向把握
- 今後の生産調整や農産物の作柄および販売情勢等の課題を抽出

中期計画 環境変化に対応し、将来にわたって

農業戦略計画

- ① 需給動向等を見据えた農業所得の確保対策
- ② 水張り面積維持に向けた方策提案（飼料用米等水田活用米穀による所得確保、急激な水張り面積減少回避）
- ③ 蔬菜作付け面積維持に向けた麦あと野菜導入への支援策提案（小麦連作障害・病害の回避への相乗効果）
- ④ 品質・収量向上方策の提案（土壌分析を活用した土壌改良支援および耕作面積階層別の輪作体系提案等）
- ⑤ 地理情報システムの利用開始（栽培・作業履歴、圃場情報の共有）
- ⑥ 経営シミュレーションによる農家経営安定への支援

期3ヵ年計画の概要

を継承し、「将来的な農業情勢の展望等を踏まえて今後何をすべきか」を基
得の安定確保に重点を置いた取り組み項目を軸に展開し、JA経営計画では、
整備と財務基盤の安定を目指して、本中期計画を策定・提案いたします。

南幌町農業とJAの現状と課題

- 土地利用型作物の作付け志望多数
- 農家戸数の減少に伴う大規模化などにより水張り面積および蔬菜面積が減少傾向
- 小麦の過剰作付けによる連作障害や病害の回避
- 大豆の安全で円滑な受入体制等整備
- 導入後約20年経過した色彩選別機を始めとする農産関連施設の老朽化による大規模修繕および機器の更新

メインテーマ

持続可能な南幌町農業・農協の確立

JA経営計画

- ① 農産関連施設の稼働率維持と計画的な固定資産取得・修繕
- ② 農産関連施設（大豆保管用倉庫等）と資材関連施設（肥料保管倉庫等）の拠点集約検討
- ③ 貯金事業量の更なる拡大と個々のメインバンク化への推進
- ④ 収益構造の再精査と費用の削減等によるJA収支の確保（配当原資の確保）
- ⑤ 新たな会計方針導入等に伴う積立金の取崩しと自己資本比率の維持

第15次農協事業中期 ～明るい未来への懸け橋を

農業政策の先行きが不透明な中、第14次中期計画の考え方を基本に農業戦略計画を策定し、将来にわたって持続可能な南幌町農業の確立を目指し、既存の農産関連施設を最大限活りました。

特に我が国の主食であり当町の主要作物である米については、食の多様化や外食産業の需機能を維持しながら将来的な米価の回復時に水稻の作付けが出来るよう、交付金を活用し、目指します。

小麦は連作障害や病害への対応などで更なる品質向上・収量増加への取り組み、大豆について出荷への奨励も行なうほか、天候に左右されない円滑な受入体制の確保のため、保管用倉庫なかで、作付面積が減少の一途を辿っており、魅力ある地域の特産品として、また、集出荷セン維持に向けて産地交付金および農業振興策を活用した取り組みや、粗原集荷・機械収穫可能

米について (P6～)

- 水稻・小麦を軸とした輪作体系の確立支援
- 直播栽培等水稻作業の省力化技術の提案
- 国による「水田活用米穀支援」の活用
- 温湯消毒作業をJAに集約

将来、主食用米に戻れるよう水張面積を確保

蔬菜について (P14～)

- 麦あと野菜導入への支援
- 圃場に適した品種選定のための作付試験
- 粗原出荷等による作業省力化
- 新たな加工業務用野菜の検討と市場調査
- 新規作付者への支援

生産基盤の確保と安定供給

環境整備に

- 効率化への環境
農地GISの公
- 情報伝達方法
FAXから携帯端末
常会担当職員制
- 農業振興策事
土壌改良の取り
圃場透排水性向
する助成
- 経営シミュレー
農家経営安定へ

持続可能な産地形成に向けた環境整備

3カ年計画 農業戦略計画

目指して (ARCH) ～

ておりますが、新型コロナウイルス感染症のまん延による世界的な食料情勢の変化に対応しつつ
用しながら農家所得を確保していくということが最重要取組事項と定義し、検討を重ねてまい

要低迷等により在庫が増加しており、主食用米の価格は下落傾向にあります。水田としての
飼料用米等の水田活用米穀による農家所得と水張面積を維持するとともに、集荷量の向上を

ても品質向上・収量増加への取り組みはもちろんのこと、クリーナー助成を継続しつつ高品質
等の施設整備を進めていくことを計画しており、蔬菜関係では、生産者の大規模経営化が進む
ターや育苗センターなど、既存の野菜関連施設を有効に活用していく観点からも、生産面積の
な加工業務用野菜の導入検討など、生産基盤の確保による安定販売を目指してまいります。

小麦・大豆について (P12～)

向けた支援 (P16～)

整備
開・利用促進

の再構築
アプリへの移行検討
度の見直し

業による支援
組みに対する助成
上の取り組みに対

ションによる
の支援

- 基本技術の励行・支援、収量・品質向上の取り組みに対する支援
- 田畑輪換等による麦の病害への対応
- 麦あと野菜導入への支援
- 搬入量の増加に対応した受入体制の構築
- 大豆受入のための保管用倉庫等の整備
- 高位平準化に向けた良品質大豆への助成

収量・品質向上による所得確保

その他の取り組み (P15～)

- 南幌町将来ビジョンの明確化・共有
- 円滑な経営移譲への対応
- 新規就農者受入支援
- デイワークの利用サポートと普及推進
- 農産関連施設と資材関連施設の拠点集約検討
- 農産関連施設の老朽化に伴う計画的な機材更新と運営体系の見直し検討

により「南幌の農業」を強固なものに!

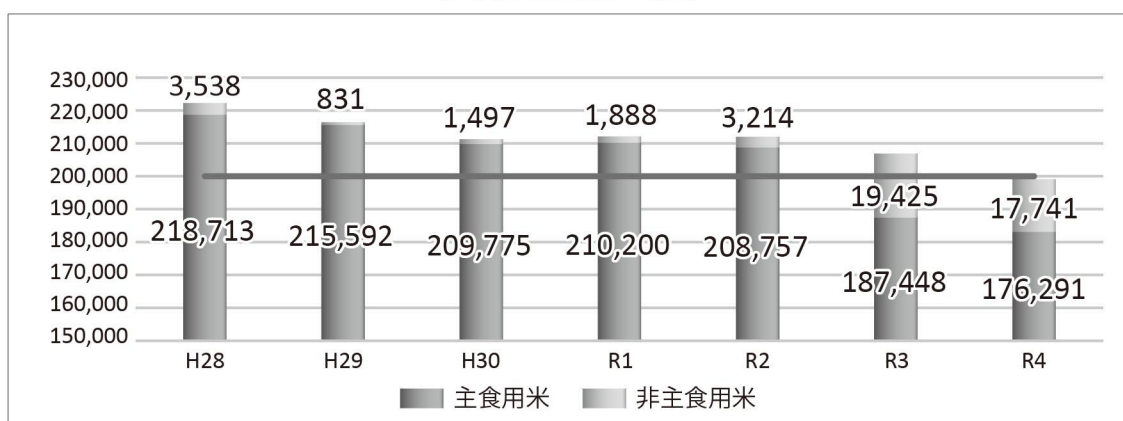
米について

南幌町の米の現状

第14次中期計画 (Connect) では、交付金に頼らない安定的な所得の確保のため水稲作付の推進を行いました。

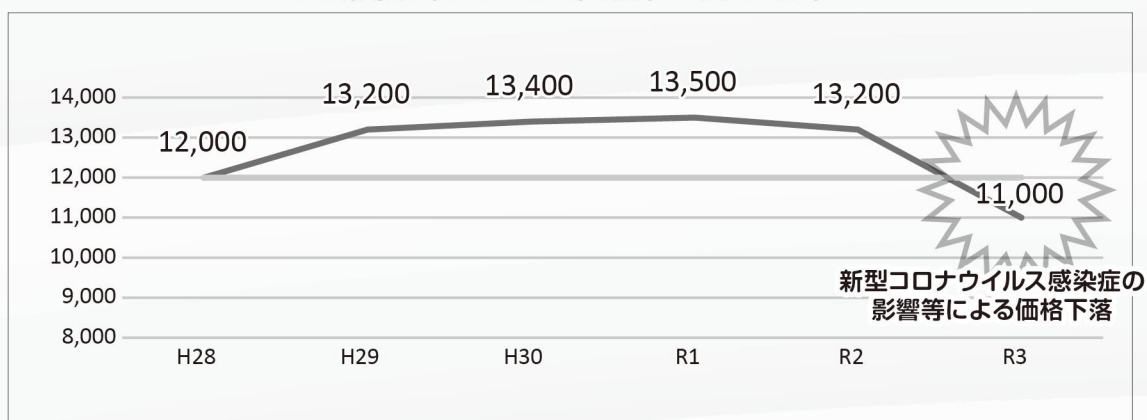
しかし、水張面積の維持確保には至らず、結果として水稲作付面積は減少傾向に。

水稲作付面積の推移



また、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、主食用米の米価も下落。

主食用米 (ななつぼし) 概算金単価の推移



ますます地域の水張面積は減る一方・・・

しかしながら…

国の交付金体系（水田活用の直接支払交付金）の運用見直し！水稲作付しないと一部交付金がもらえなくなるかも…



お米の作付をするには、労働力確保や圃場整備の面ですぐには無理よ！

今の輪作体系だと急に水稲に戻すのも難しいし…



こまったことになるかも…

そこで…水張面積の維持（確保）のために

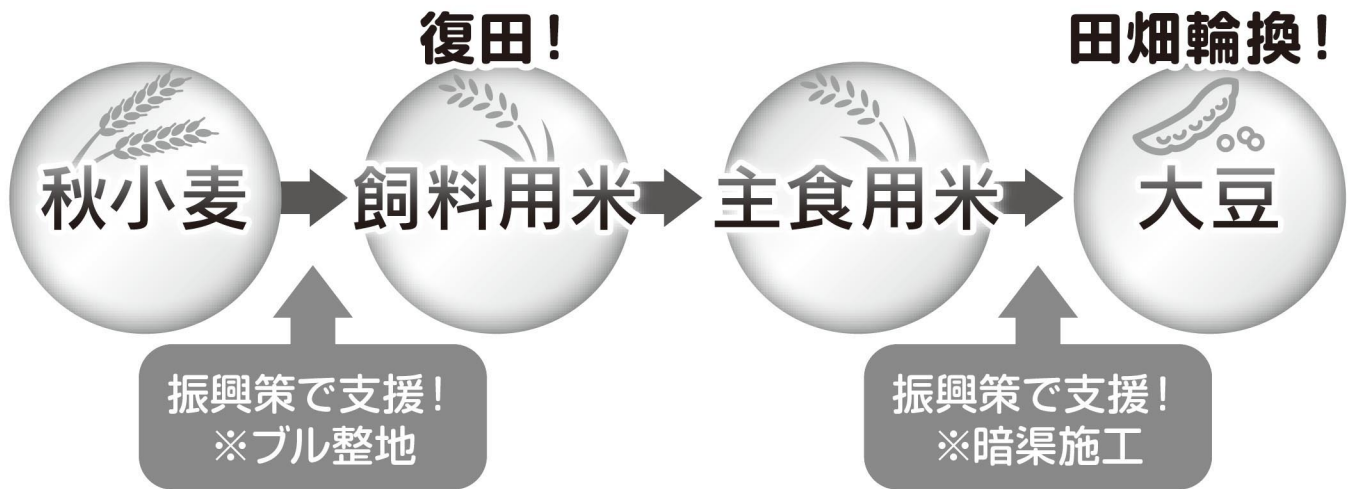
- ①水稲・小麦を軸とした輪作体系の確立支援
- ②直播栽培等水稲作業の省力化技術の提案
- ③国による「水田活用米穀支援」の活用
- ④温湯消毒作業をJAに集約

以上を実現し、将来的に主食用米作付に戻れるよう水張面積を確保しましょう！

米について

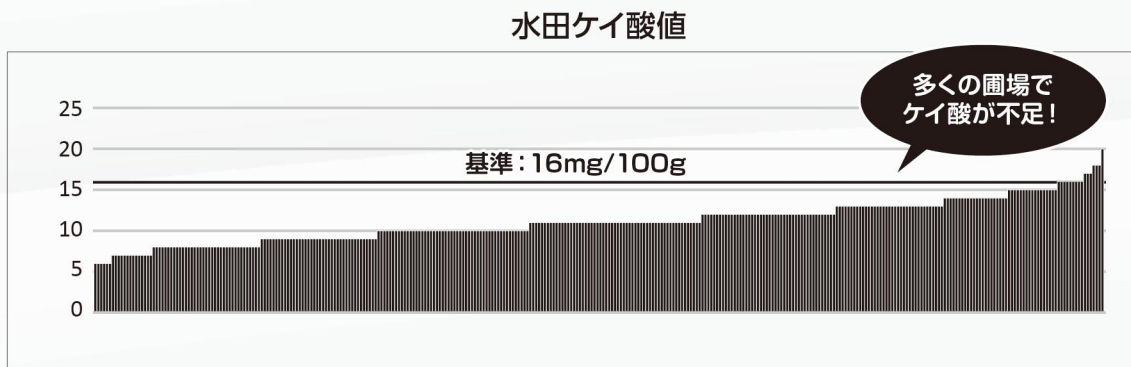
① 水稻・小麦を軸とした輪作体系の確立支援

農業振興策事業による圃場整備への助成



復田・田畑輪換に係る圃場整備
圃場透排水性向上のための暗渠施工 } へ助成!

農業振興策事業による土壌改良への助成(水田)



可給態ケイ酸不足改善のための土壌改良資材投入に対し農業振興策事業で助成を実施します!

※畑作圃場でも同様の助成を実施(詳しくは13ページへ)

② 直播栽培等水稲作業の省力化技術の提案

直播栽培

苗をつくらずに水田に直接種子を播く方法 春作業は楽に!

省力化率
60%
安定度
低～中

〈技術概要〉

- レーザーレベラー等の作業機と大型トラクターが必要です。
 - ・湛水直播：代掻してから播種し、「落水出芽法」により出芽させます。
専用直播機が必要（主に筋播と点播タイプの2種類）
 - ・乾田直播：畑状態の水田で播種し、出芽揃後に入水します。
播種機とケンブリッジローラーは麦との共用が可能。
(チゼルプラウ等の耕起、レーザーレベラーで整地、ケンブリッジローラーで鎮圧作業が必要)
- 春作業**60%以上削減!**（育苗～移植作業）
- 品種の選定は早生品種「えみまる」「大地の星」等

注)

- 出穂は慣行栽培より**10日以上遅くなります。**
- 種子は10～13kg（通常の3～4倍）必要です。
- 天候によって出芽率に差が出ます。
- 雑草が生えやすく、特に乾田直播は除草剤が効きづらくなります。



播種機は畑作と共用可能（乾田直播）

播種直後の様子（乾田直播）



米について

高密度播種中苗（密播中苗）

**中苗用の播種機・移植機の設定を変えるだけ！
苗箱削減で育苗や田植えの労力をカット！**

**省力化率
40%
安定度
中～高**

〈技術概要〉

- マット苗で育苗箱への播種量を通常の2倍にします。
- 育苗日数は同程度で、葉令は植物調整剤を使用して確保します。
- 苗箱数は慣行の40%以上削減。育苗・物財費は慣行比80%程度。
- 育苗箱・追肥は慣行の2倍量を施肥〈窒素分量2g/箱〉×2回
- 品種の選定は慣行と同様。（成熟期は2～3日遅れる場合がある）

注)

- 覆土が持ち上がりやすい。苗立枯病にも注意！
- 徒長に留意した育苗管理が重要となります。
- 葉令や乾物重は慣行苗に比べやや劣ります。
- 初期分けつが不足すると、慣行中苗より収量が劣りやすい。

〈目安の概要〉

| | 播種量 | 植物調整剤 | 播種機 | 播種時期 | 育苗日数 | 移植時葉令 | 移植機 | 箱数/10a |
|---------|-----------|-------|-----|-------|--------|----------|-----|--------|
| 密播中苗 | 400ml | 必要 | 慣行機 | 4中～下旬 | 30～35日 | 2.6葉以上 | 慣行機 | 18枚 |
| (参考) 中苗 | 150～200ml | 不要 | | | | 3.0～3.5葉 | | 30～35枚 |

苗箱数は移植機設定や栽植密度により変動

その他の省力化技術

●疎植栽培

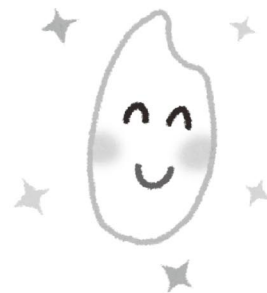
成苗ポットの株間を広げて、同じ育苗面積で作付拡大！

●無代掻き栽培

5月の農作業軽減と転換畑の前作に！

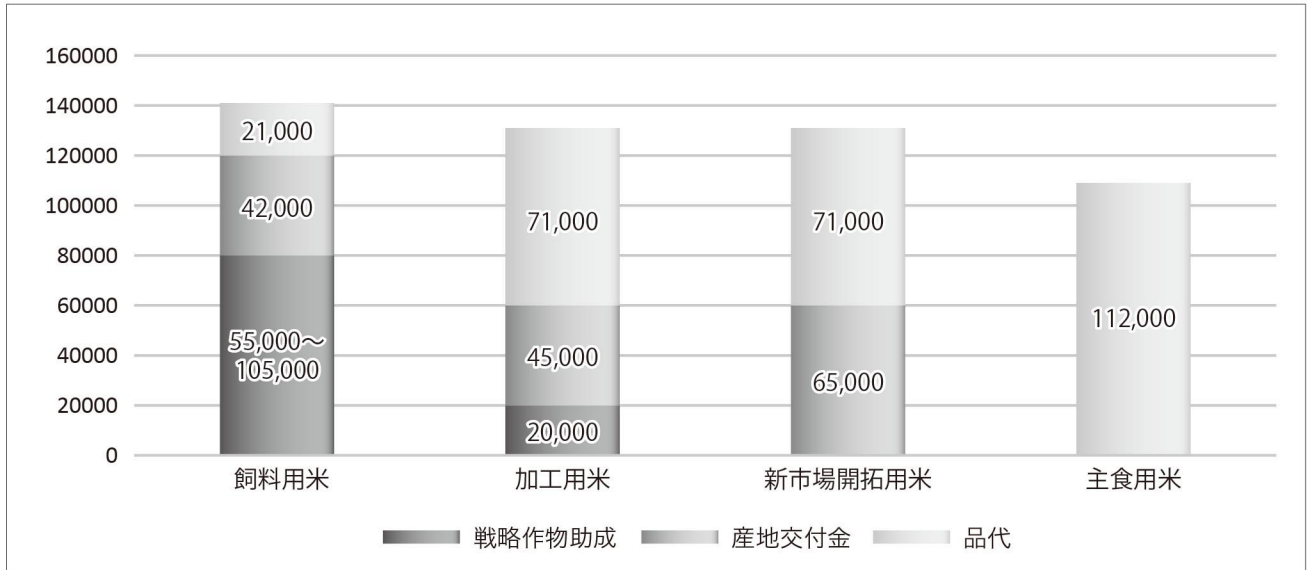
●置床鎮圧育苗法

設置作業と苗取り作業の効率化・農作業負担軽減！



③ 国による「水田活用米穀支援」の活用

現在の交付金体系



※令和3年度の交付金単価で試算しております。

「水田活用米穀」取り組みのメリット

- ・水田活用の直接支払交付金による助成を活用することで10aあたりの所得が主食用米を上回る場合がある
- ・復田直後でも取り組みやすい

「水田活用米穀」取り組みのデメリット

- ・収入の大部分を交付金に依存しているため、制度の変更で所得が大幅に変わる可能性がある

※水田活用米穀とは

飼料用米や米粉用米などの主食用以外の用途に供されるため生産する米穀のこと。
経営所得安定対策（水田活用の直接支払交付金）による助成があります。



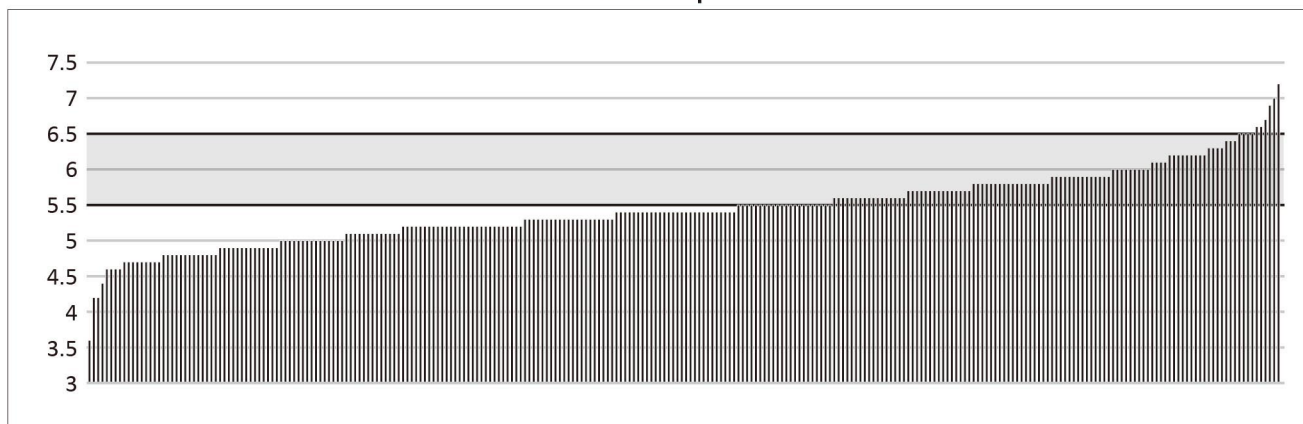
④ 温湯消毒作業をJAに集約

拠点集約により均質な種子供給によるクリーン農業の実現

小麦・大豆について

南幌町の小麦・大豆の現状

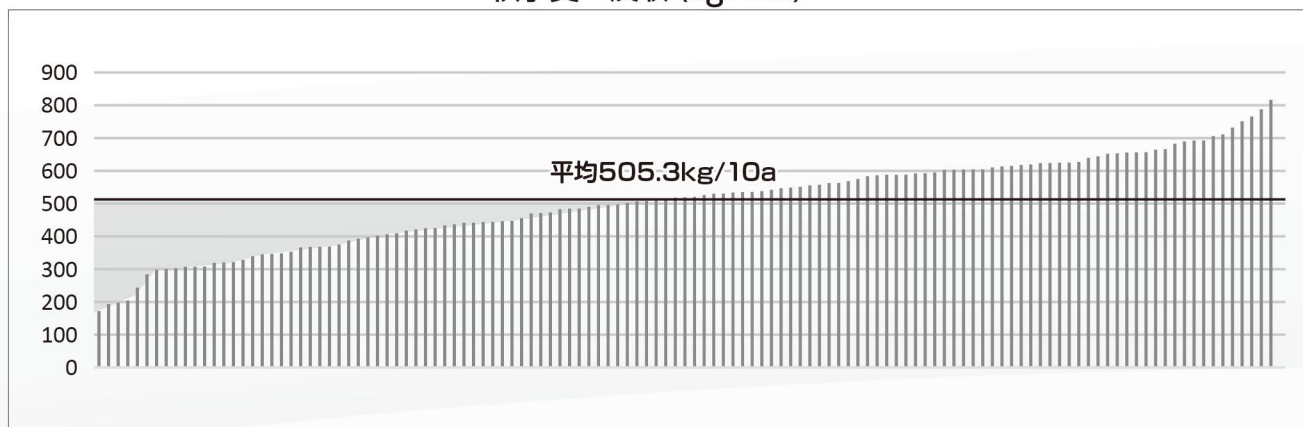
転作圃場pH



圃場pHが基準値に満たない圃場が多い!

(令和2年度土壌分析結果より:秋小麦5.5~5.8、大豆5.5~6.5を基準として)

秋小麦 反収 (kg/10a)



生産者間の収量格差が開いている

(令和3年度秋小麦数量払いデータより)

圃場のpHを改善し、収量・品質の向上を目指そう!



① 基本技術の励行・支援、収量・品質向上の取り組みに対する支援 農業振興策事業による土壌改良への助成（畑作圃場）

サンプル番号 21019 土壌診断票(畑作)

| | | | | |
|------|----------|-------|-------|------------|
| 農家名 | 農家番号 | 50130 | 採取年月日 | 2020年11月4日 |
| 所在地 | 〒0000000 | 町 | 番 | 号 |
| 土壌種類 | 産地 | 土質 | 母土(C) | 圃場 |

| 1. 分析結果 (中01) | 単位 | 50年値 | 基準値 | 評価値 |
|---------------|---------|------|---------|-----|
| pH(水) | - | 5.7 | 5.5~6.2 | 6.4 |
| 有機物 | % | 4.0 | 3.0~4.0 | 3.0 |
| 全窒素 | mg/100g | 30 | 20~30 | 30 |
| 全リン | mg/100g | 300 | 120~300 | 100 |
| 全カリ | mg/100g | 20 | 12~40 | 20 |
| 全水素 | mg/100g | 10 | 12~30 | 10 |
| 全炭素 | mg/100g | 11 | - | - |

| 2. 陰イオン | 単位 | 50年値 | 基準値 | 評価値 |
|---------|----|------|---------|-----|
| 硝酸イオン | % | 0 | 0~20 | 20 |
| 硫酸イオン | % | 0 | 0~30 | 30 |
| 塩素イオン | % | 0 | 0~10 | 10 |
| カルシウム | % | 4.0 | 0.0~6.0 | 6.0 |
| マグネシウム | % | 2.0 | 2.0~ | 2.0 |

| 3. 分析結果 (中02) | 単位 | 50年値 | 基準値 | 評価値 |
|---------------|---------|------|-----|-----|
| 交換性陽イオン | mg/100g | 0 | - | - |
| 交換性陰イオン | mg/100g | 1.00 | - | - |
| 交換性窒素 | mg/100g | 7.0 | - | - |
| 交換性リン | mg/100g | - | - | - |
| 交換性カリ | mg/100g | - | - | - |
| 交換性水素 | mg/100g | - | - | - |
| 交換性炭素 | mg/100g | - | - | - |
| 交換性窒素 | mg/100g | 1.0 | 1.0 | 1.0 |
| 交換性リン | mg/100g | 0.5 | 0.5 | 0.5 |
| 交換性カリ | mg/100g | 1.0 | 1.0 | 1.0 |
| 交換性水素 | mg/100g | 0.5 | 0.5 | 0.5 |
| 交換性炭素 | mg/100g | 0.5 | 0.5 | 0.5 |

| 4. 土壌改良剤調整に際してのKor(%) | 養分 | 調整率 | 調整率(%) |
|-----------------------|------|------|--------|
| 窒素 | 100% | 100% | 100% |
| リン | 100% | 100% | 100% |
| カリ | 100% | 100% | 100% |
| 水素 | 100% | 100% | 100% |
| 炭素 | 100% | 100% | 100% |

よい土とは

物理的要因 厚くてやわらかい土の層がある
→作土性(耕せる部分)や有効土層(根が伸び広がることのできる部分)の厚さ
保水力や排水性がある
風や水による侵食作用に耐える力がある 等

農業振興策事業でサポート!

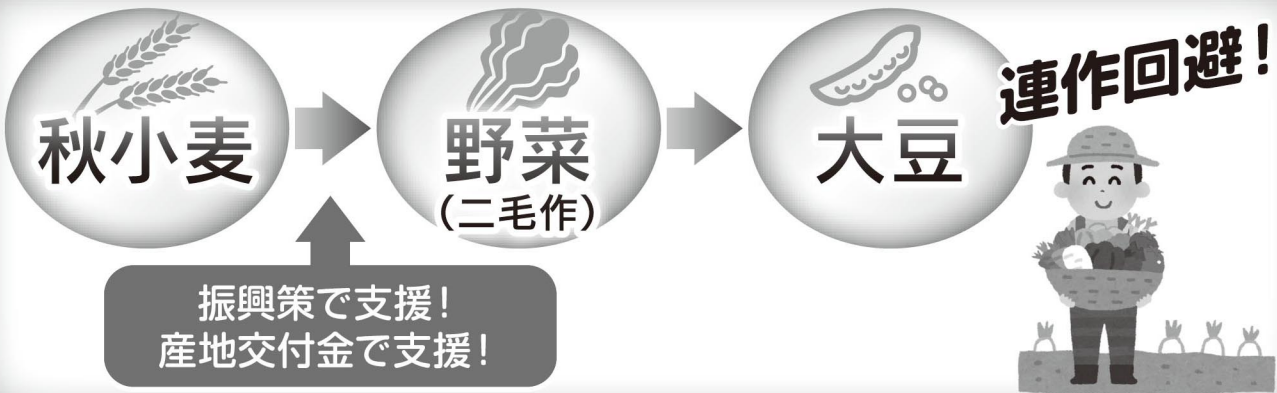
化学的要因 土壌の緩衝作用がある(ストレスを緩和する力がある)
→pHが適正範囲にある
作物に必要な養分を保持する力、供給する力がある 等

生物学的要因 有機物を適度に含んでいる
土壌中の微生物の活動が活発である
→有機物や有害物質の分解力、病害虫の抑止力などにつながる 等

どれか一つの要因が抜き出ているだけでは良いわけではなく、全ての要因がバランスよく保たれた土壌が「良い土壌」といえます。

② 田畑輪換等による麦の病害への対応 →詳しくは18ページへ

③ 麦あと野菜導入への支援



④ 搬入量の増加に対応した受入体制の構築

品種増加に対応した受入体制の構築とともに、製品品質の向上を目指します。

⑤ 大豆受入のための保管用倉庫等の整備

天候に左右されず、安全で円滑な受入体制を構築します。

⑥ 高位平準化に向けた良品質大豆への助成

蔬菜について

① 麦あと野菜導入への支援

麦あと野菜の作付けにより出荷販売した面積に対する助成支援（産地交付金・振興策）の拡充により生産基盤の確保に取り組みます。

② 圃場に適した品種選定のための作付試験

新品種・推奨品種の作付け試験を継続的に行いながら、各品目の収量・品質向上に向け圃場に適した品種選定に取り組みます。

③ 粗原出荷等による作業省力化

粗原出荷により、選果作業等を外部委託し、生産者の作業負担軽減に取り組みます。

④ 新たな加工業務用野菜の検討と市場調査

機械一貫化体系による作業省力化、作付拡大を目指し現行の加工キャベツの他、生産者が取り組み易い品目の情報収集を行い、新たな品目選定に取り組みます。

⑤ 新規作付者への支援

新規作付者に対し苗代助成による作付支援を行います。

以上の取り組みにより、
蔬菜の生産基盤の確保と
安定供給を実現します！



その他の取り組み

① 南幌町将来ビジョンの明確化・共有

関係機関と連携し、将来の農業情勢の変化に対する柔軟な対応を行います。

② 円滑な経営移譲への対応

有利資金の活用による将来を見据えた投資計画の提案と、農業経営基盤強化準備金等の仕組みについて、青年部・法人会等を通じ、後継者向け研修会を開催します。

③ 新規就農者受入支援

社会保険への加入を想定し、個人法人設立に係る事務支援や、雇用に関する各種政策等を把握し、申請に係る支援を行います。

④ デイワークの利用サポートと普及推進

デイワークの更なる普及と活用を目指し、操作サポート等を行います。

⑤ 農産関連施設と資材関連施設の拠点集約検討

組合員の利便性向上と業務の効率化およびコストの低減に向け、各拠点施設の集約を検討します。

⑥ 農産関連施設の老朽化に伴う計画的な機材更新と運営体系の見直し検討

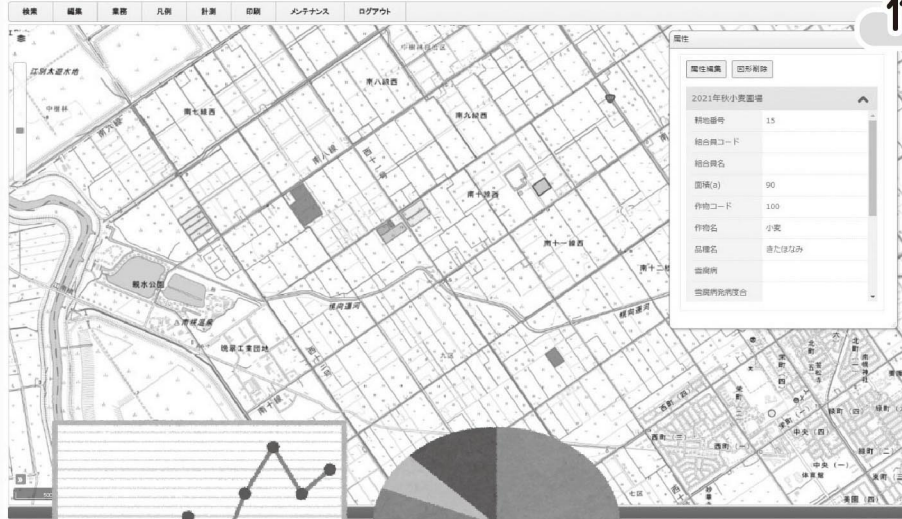
計画的な固定資産の更新、補修の実行と、蔬菜関連施設の収支の再精査及び育苗ハウス規模見直しの検討を行います。

環境整備に向けた支援

効率化への環境整備

農地GISの公開・利用促進

JAなんぼろ 農地GIS農場管理支援システム



作付履歴の確認

2021年秋小麦圃場

| 圃場番号 | 15 |
|---------|-------|
| 組合員コード | |
| 組合員名 | |
| 面積(㎡) | 90 |
| 作物コード | 100 |
| 作物名 | 小麦 |
| 品種名 | 遠くほほみ |
| 農薬名 | |
| 当該圃場の定白 | |

2021年秋 土壌診断表 (耕作)

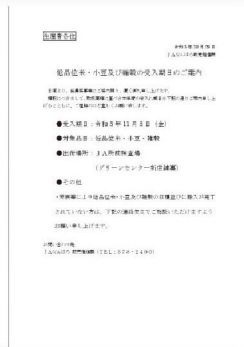
| 圃場番号 | 15 | 圃場面積 | 90.00 | 調査時期 | 2021.10.15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------|------|------------|----|-----|-----|-----|------|-----------|-----|------|-----------|-----|-----|---------|-------|------|-----------|-------|------|-----------|-------|-----|---------|
| 圃場名 | 2021年秋小麦圃場 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 組合員名 | JAなんぼろ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調査者 | JAなんぼろ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調査場所 | JAなんぼろ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調査方法 | 土壌採取 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調査深度 | 0-10cm | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調査回数 | 1回 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調査結果 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>測定値</th> <th>標準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全窒素</td> <td>0.15</td> <td>0.10-0.20</td> </tr> <tr> <td>全リン</td> <td>0.05</td> <td>0.03-0.07</td> </tr> <tr> <td>全カリ</td> <td>1.5</td> <td>1.0-2.0</td> </tr> <tr> <td>速効性窒素</td> <td>0.05</td> <td>0.03-0.07</td> </tr> <tr> <td>速効性リン</td> <td>0.02</td> <td>0.01-0.03</td> </tr> <tr> <td>速効性カリ</td> <td>0.5</td> <td>0.3-0.7</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | 項目 | 測定値 | 標準値 | 全窒素 | 0.15 | 0.10-0.20 | 全リン | 0.05 | 0.03-0.07 | 全カリ | 1.5 | 1.0-2.0 | 速効性窒素 | 0.05 | 0.03-0.07 | 速効性リン | 0.02 | 0.01-0.03 | 速効性カリ | 0.5 | 0.3-0.7 |
| 項目 | 測定値 | 標準値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全窒素 | 0.15 | 0.10-0.20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全リン | 0.05 | 0.03-0.07 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全カリ | 1.5 | 1.0-2.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 速効性窒素 | 0.05 | 0.03-0.07 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 速効性リン | 0.02 | 0.01-0.03 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 速効性カリ | 0.5 | 0.3-0.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

反収データなど

土壌分析データの確認

情報伝達方法の再構築

FAXから携帯端末アプリへの移行検討 常会担当職員制度の見直し



農業振興策事業による支援

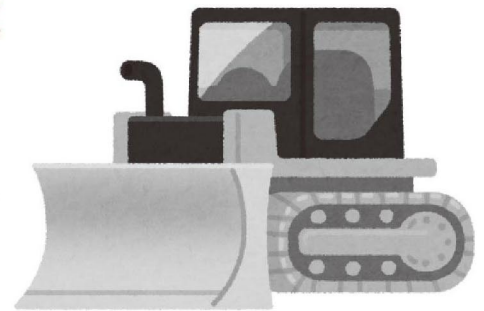
土壌改良の取組に対する助成

圃場pH改善のための石灰質資材投入
水田ケイ酸値改善のためのケイ酸質
資材投入に助成



水張機能再生に係る整地に対し助成

ブル整地の実施や圃場
透排水性向上対策に対し助成



自分のスマホで営農に関する
あらゆる情報を確認できる!

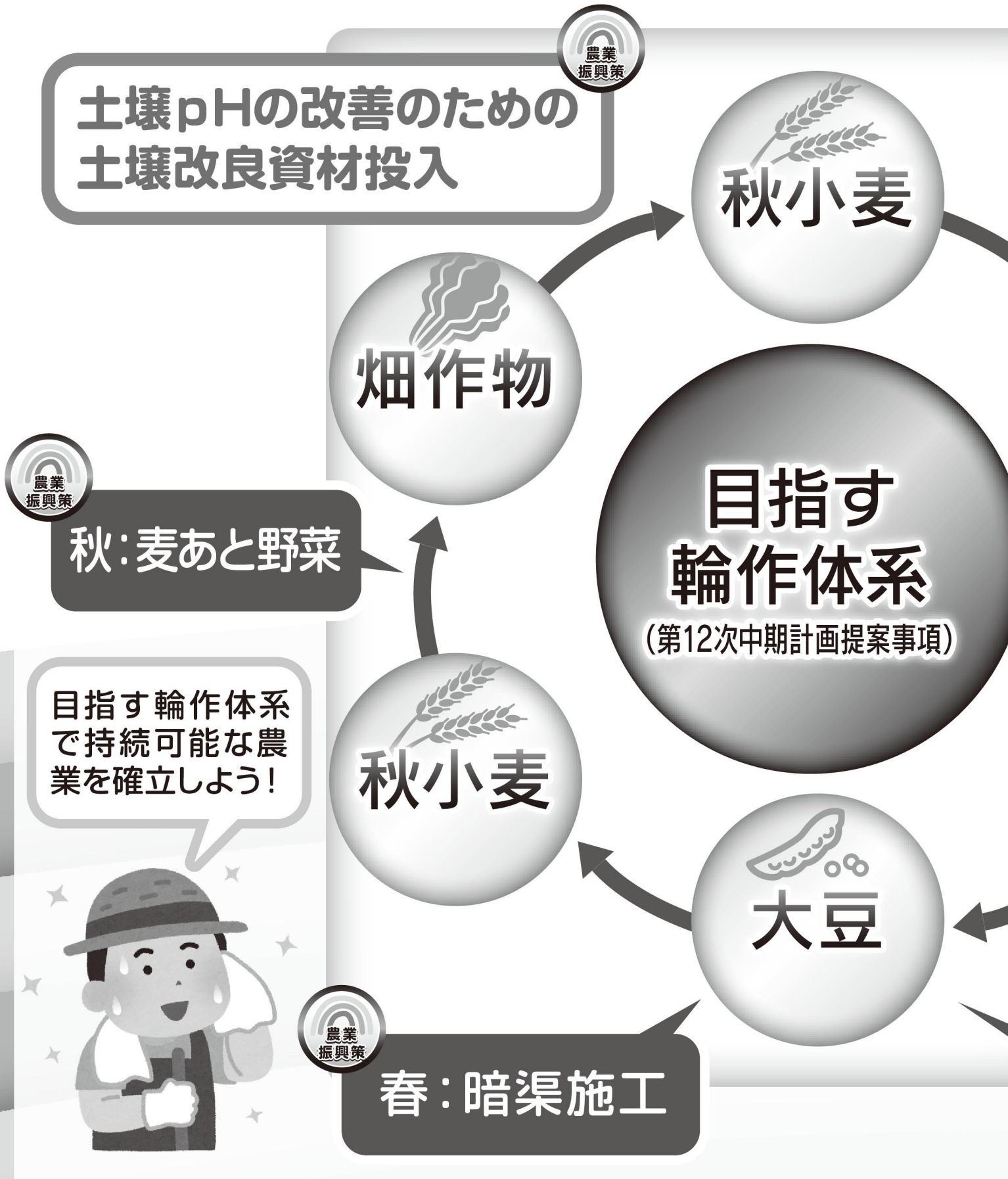
現場で圃場情
報の入力・管理
も確認できる!



経営シミュレーションによる農家経営安定への支援

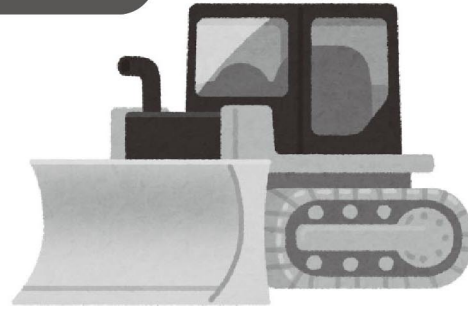
規模拡大および新規投資等を見込んだ経営シミュレーションを強化します。

農業振興策事業を活用した



輪作体系の提案

秋：ブル整地



ケイ酸値是正のための
土壌改良資材投入



飼料用米

主食用米

農業振興策事業を有
効に活用しましょう！



良品質大豆助成
クリーナー助成



※目指す輪作体系はあくまで一例です。

作付計画面積

(単位:ha)

| 作物名 | | 基準年度 作付面積 | 令和4年度 作付面積 | 令和5年度 作付面積 | 令和6年度 作付面積 |
|-----|--------|--------------|---------------|---------------|---------------|
| 水稲 | 主食用米 | 1,875 | 1,800 | 1,800 | 1,800 |
| | 水田活用米穀 | 194 | 172 | 240 | 240 |
| | 水張面積合計 | 2,069 | 1,972 | 2,040 | 2,040 |
| 小麦 | 秋小麦 | 1,534 | 1,589 | 1,567 | 1,567 |
| | 春小麦 | 157 | 174 | 165 | 170 |
| 豆類 | 大豆 | 601 | 600 | 608 | 616 |
| | 小豆 | 57 | 58 | 58 | 59 |
| 蔬菜 | キャベツ | 37 | 38 | 39 | 40 |
| | 長ねぎ | 43 | 43 | 43 | 43 |
| | ピーマン | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | ブロッコリー | 28 | 29 | 30 | 31 |
| | 玉ねぎ | 23 | 23 | 23 | 23 |
| | スイカ | 4 | 4 | 4 | 4 |
| | その他 | 50 | 48 | 47 | 46 |
| その他 | 甜菜 | 77 | 96 | 72 | 73 |
| | 地力増進作物 | 174 | 184 | 175 | 170 |
| | その他畑作物 | 110 | 106 | 93 | 82 |

販売取扱高目標

(単位：千円)

| 品目 | 単位 | 基準年度 | | 令和4年度 | | 令和5年度 | | 令和6年度 | | |
|-----------|--------|---------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|
| | | 数量 | 販売高 | 数量 | 販売高 | 数量 | 販売高 | 数量 | 販売高 | |
| 米 | 俵 | 195,092 | 1,909,016 | 178,449 | 1,767,712 | 184,637 | 1,776,995 | 184,637 | 1,776,995 | |
| 小麦 | t | 9,747 | 1,541,483 | 9,467 | 1,222,834 | 9,304 | 1,199,635 | 9,329 | 1,203,529 | |
| 大豆 | 俵 | 21,149 | 208,801 | 18,131 | 154,320 | 18,131 | 155,400 | 18,131 | 156,484 | |
| 小豆 | 俵 | 3,135 | 69,977 | 2,320 | 46,400 | 2,320 | 46,400 | 2,360 | 47,200 | |
| 小計 | | — | 3,729,277 | — | 3,191,266 | — | 3,178,430 | — | 3,184,208 | |
| 蔬 菜 | キャベツ | t | 2,123 | 150,698 | 2,250 | 178,700 | 2,300 | 186,700 | 2,350 | 195,700 |
| | 軟白長ねぎ | t | 40 | 19,020 | 56 | 24,000 | 56 | 24,000 | 56 | 24,000 |
| | 露地長ねぎ | t | 820 | 263,138 | 816 | 274,150 | 816 | 274,150 | 816 | 274,150 |
| | ピーマン | t | 91 | 31,164 | 86 | 34,000 | 86 | 34,000 | 86 | 34,000 |
| | ブロッコリー | t | 275 | 104,697 | 270 | 105,300 | 279 | 108,810 | 288 | 112,320 |
| | 玉ねぎ | t | 765 | 80,377 | 650 | 43,000 | 650 | 43,000 | 650 | 43,000 |
| | スイカ | t | 189 | 56,379 | 135 | 36,540 | 135 | 36,540 | 135 | 36,540 |
| | その他 | t | — | 24,540 | — | 24,575 | — | 24,390 | — | 24,625 |
| | 小計 | | — | 730,013 | — | 720,265 | — | 731,590 | — | 744,335 |
| 花卉 | 種 | 493 | 29,372 | 403 | 32,240 | 403 | 32,240 | 403 | 32,240 | |
| 甜菜 | t | 7,585 | 71,231 | 6,048 | 61,959 | 6,634 | 70,642 | 6,697 | 71,313 | |
| 生乳 | t | 400 | 38,003 | 400 | 36,000 | 400 | 36,000 | 400 | 36,000 | |
| その他 | — | — | 31,231 | — | 25,919 | — | 25,931 | — | 25,931 | |
| 過年度産追加精算金 | — | — | 267,782 | — | 210,108 | — | 179,099 | — | 171,213 | |
| 合計 | | — | 4,896,909 | — | 4,277,757 | — | 4,253,932 | — | 4,265,240 | |
| うち直接支払交付金 | | — | 1,133,436 | — | 1,054,968 | — | 1,051,073 | — | 1,055,228 | |

※基準年度は、令和3年度実績数値

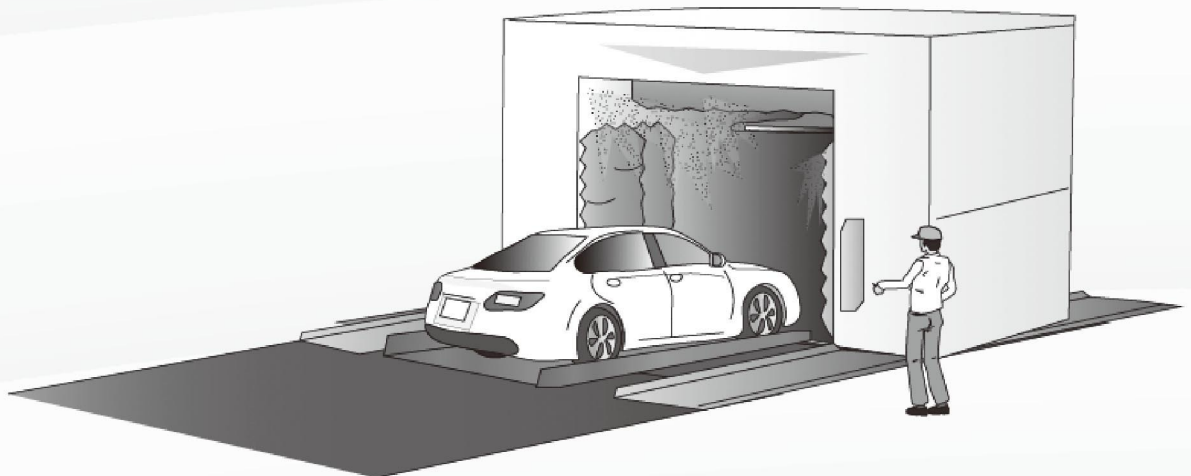
資材・燃料事業

組合員満足度向上に向けた
取り組みをおこないます。

- I. 部署間連携による総合的な組合員対応
- II. 職員の対応力向上
(内部勉強会の実施、システム活用等)
- III. 資材店舗窓口対応の充実化 (資材POS入替による効率化)

燃料情勢が不透明な中、
持続可能な燃料事業運営に取り組みます。

- I. ドライブスルー洗車機導入と将来を見据えた設備更新
- II. LPGの保安管理体制の充実による「安心・安全」の提供



信用・共済事業

利用者に信頼され親しまれる
JAバンクづくりに取り組みます。

- I. 推進を強化し相談機能を高め、サービス向上による事業基盤を拡充
- II. 利便性向上のためインターネットバンキング及びJAバンクアプリの利用を提案
- III. 店舗内周辺機器の更新に併せ現行体制を見直し、新たな運営体制を構築

利用者ニーズに合わせた
バランスのとれた総合保障を提供します。

- I. 既契約者に対し、契約内容の見直しと保障の充足を提案
- II. 満期到来者に対し、継続保障と金融商品を総合的に提案
- III. 未加入者に対し、新規提案のための市街地訪問活動を強化

内部監査・総務事業

変化に対応し持続可能な農協づくりに取り組みます。

- I. 適時適切な固定資産整備とコスト削減
- II. 様々なニーズに対応可能な職場と人づくりを実践

固定資産整備計画

(単位:千円)

| 年度 | 整備計画概要 | 事業費 |
|-------|----------------------|---------------------|
| 令和4年度 | 野菜等集出荷センター ブラインククーラー | 32,800 |
| | 麦富21湿式集塵機部分補修 | 15,000 |
| | 麦富21荷受計量操作盤更新 | 3,300 |
| | フォークリフト2台更新 | 9,900 |
| | 小麦横型フレコン | 9,900 |
| | 米夢・麦富・トラックスケールLED工事 | 6,450 |
| | エコープエントランス改修 | 3,000 |
| | 各施設修繕・屋根塗装工事 | 6,200 |
| | 育苗センター 育苗ベンチ | 3,112 |
| | その他 | 5,303 |
| | 小計 | 94,965 |
| | 【リース】 ドライブスルー洗車機 | 13,000 |
| 令和5年度 | 大豆保管用倉庫 | 198,000 |
| | 育苗センター ハウスビニール張替 | 7,000 |
| | 公用車3台・バッテリーリフトBT交換 | 4,957 |
| | 小麦横型フレコン・米麦保管用コンテナ | 8,456 |
| | 育苗センター 育苗ベンチ | 3,112 |
| | その他 | 4,600 |
| | 小計 | 226,125 |
| | 【リース】 米夢21色彩選別機(2台) | 86,520 |
| 令和6年度 | 温湯消毒設備一式 | 35,000 |
| | 夕張太5号倉庫冷却器更新 | 16,000 |
| | 米夢21湿式集塵機部分補修 | 15,000 |
| | エコープ屋上看板塗装工事 | 8,500 |
| | 各施設修繕・屋根塗装工事 | 6,000 |
| | 小麦横型フレコン・米麦保管用コンテナ | 8,456 |
| | 育苗センター 育苗ベンチ | 3,112 |
| | その他 | 1,600 |
| | 小計 | 93,668 |
| | | 【リース】 4次システム対応資材POS |
| | 【リース】 店頭油種計量器・釣銭機 | 10,400 |

《今回の中期計画中に検討を行う施設等》 ・麦富21色彩選別機
 ・フォークリフト
 ・肥料保管倉庫

事業収支計画

(単位:千円, %)

| 部門 | 年度 | 基準年度 | 令和4年度 | | 令和5年度 | | 令和6年度 | |
|-------|----|---------|---------|--------|---------|--------|---------|-------|
| | | | 計画 | | 計画 | | 計画 | |
| | | | 金額a | 金額b | 対比b/a | 金額c | 対比c/a | 金額d |
| 信用 | | 131,300 | 119,180 | 90.8 | 115,635 | 88.1 | 115,695 | 88.1 |
| 共済 | | 90,781 | 90,200 | 99.4 | 90,500 | 99.7 | 91,700 | 101.0 |
| 販売 | | 154,625 | 143,565 | 92.9 | 147,420 | 95.3 | 148,295 | 95.9 |
| 資材 | | 142,650 | 136,169 | 95.5 | 133,236 | 93.4 | 134,046 | 94.0 |
| 燃料 | | 56,785 | 54,452 | 95.9 | 56,017 | 98.7 | 56,112 | 98.8 |
| 生活 | | 15,468 | 15,745 | 101.8 | 16,322 | 105.5 | 15,662 | 101.3 |
| 保管 | | 88,934 | 79,885 | 89.8 | 79,438 | 89.3 | 79,914 | 89.9 |
| 共調 | | 72,982 | 78,914 | 108.1 | 78,172 | 107.1 | 73,200 | 100.3 |
| 営農 | | 11,729 | ▲ 1,522 | ▲ 13.0 | ▲ 1,562 | ▲ 13.3 | ▲ 1,012 | ▲ 8.6 |
| 事業総利益 | | 765,255 | 716,588 | 93.6 | 715,178 | 93.5 | 713,612 | 93.3 |
| 事業管理費 | | 680,914 | 689,249 | 101.2 | 700,692 | 102.9 | 707,868 | 104.0 |
| 事業利益 | | 84,342 | 27,339 | 32.4 | 14,486 | 17.2 | 5,744 | 6.8 |
| 事業外収益 | | 48,551 | 46,245 | 95.3 | 43,201 | 89.0 | 45,479 | 93.7 |
| 事業外費用 | | 30,156 | 24,883 | 82.5 | 19,557 | 64.9 | 19,985 | 66.3 |
| 経常利益 | | 102,736 | 48,701 | 47.4 | 38,130 | 37.1 | 31,238 | 30.4 |
| 特別利益 | | — | — | — | 2,400 | — | 7,200 | — |
| 特別損失 | | 1,043 | — | — | 154 | — | 158 | — |
| 当期剰余金 | | 101,693 | 48,701 | 47.9 | 40,376 | 39.7 | 38,280 | 37.6 |

※基準年度は令和3年度実績数値

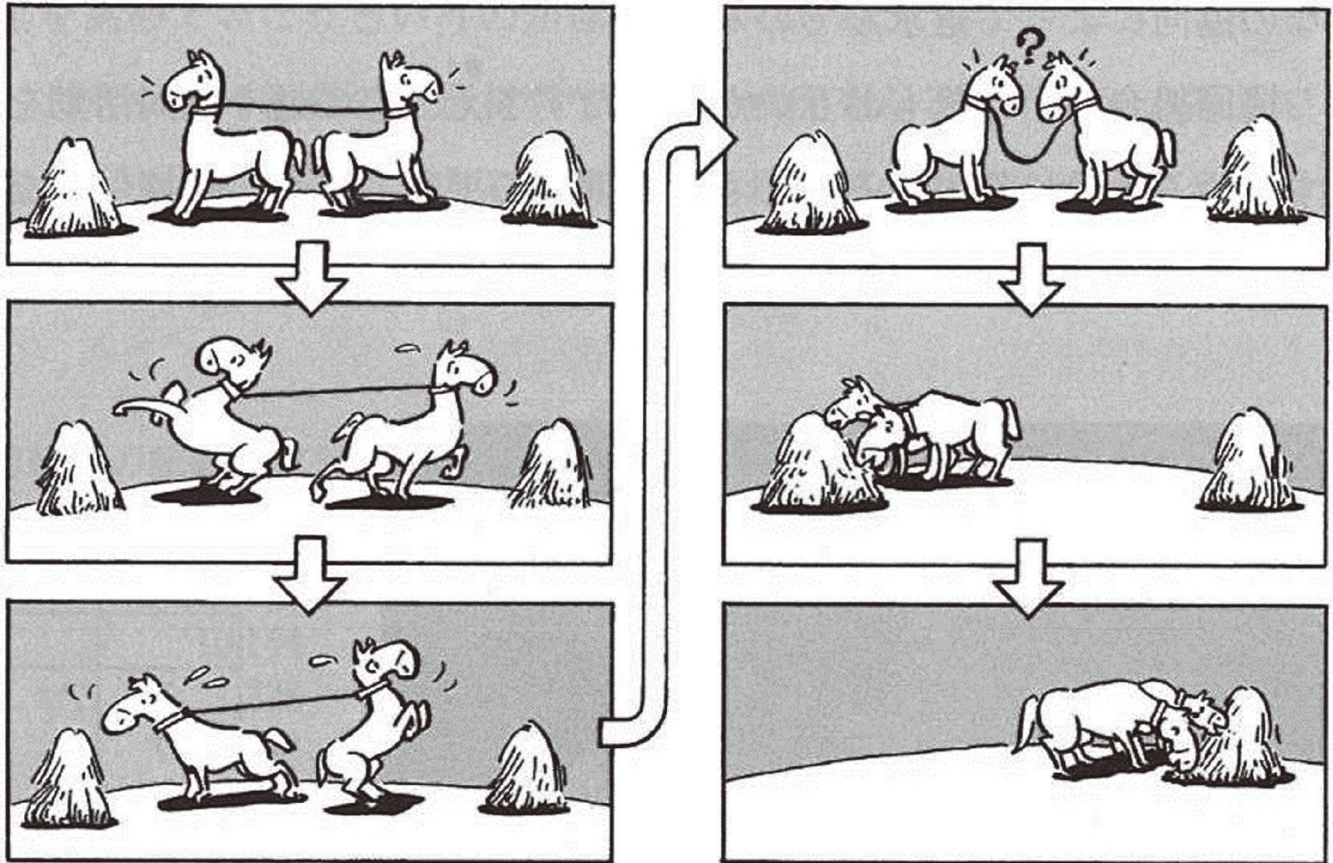
経営諸比率表

(単位:千円, %)

| 区分 | | 年度 | 基準年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|----------|---------|----|------------|------------|------------|------------|
| | | | | | | |
| 事業総利益 | a | | 765,255 | 716,588 | 715,178 | 713,612 |
| 職員数 | b | | 58 | 58 | 60 | 60 |
| 総資本 | c | | 28,264,998 | 28,711,841 | 29,112,430 | 29,683,932 |
| 自己資本 | d | | 3,058,895 | 3,072,402 | 3,080,012 | 3,091,517 |
| うち出資金 | e | | 1,009,931 | 1,013,149 | 1,014,907 | 1,015,606 |
| 固定資産 | f | | 1,039,857 | 1,050,249 | 1,191,565 | 1,193,326 |
| 外部出資 | g | | 898,397 | 898,397 | 898,397 | 1,357,937 |
| 人件費 | h | | 422,133 | 408,607 | 419,580 | 419,528 |
| 預金(平残) | i | | 19,798,802 | 21,197,578 | 22,412,848 | 22,876,066 |
| 有価証券(平残) | j | | 199,575 | 188,268 | 13,148 | 0 |
| 貸付金(平残) | k | | 2,577,780 | 2,456,118 | 2,377,799 | 2,274,266 |
| 貯金(平残) | l | | 22,121,234 | 23,964,840 | 24,380,994 | 24,723,302 |
| 労働生産性 | (a-h)/b | | 5,916 | 5,310 | 4,927 | 4,901 |
| 自己資本比率 | - | | 27.61 | 26.78 | 24.20 | 24.13 |
| 固定比率1 | d/(f+g) | | 157.82 | 157.67 | 147.37 | 121.18 |
| 固定比率2 | d/f | | 294.16 | 292.54 | 258.48 | 259.07 |
| 貯貸率 | k/l | | 11.65 | 10.25 | 9.75 | 9.20 |
| 貯預率 | i/l | | 89.50 | 88.45 | 91.93 | 92.53 |
| 貯証率 | j/l | | 0.90 | 0.79 | 0.05 | 0.00 |

人件費=給料手当+法定福利費+厚生費

協同とは



この絵は、お互いが身勝手にふるまうよりは、力を合わせることの大切さを教えている。

JA NANPORO

one for all all for one


JAなんぽろ
LINE公式アカウント



ARCH

アーチ

組合員・農協・地域住民が互いに支え合い、
環境変化に対応しながら南幌町農業における
未来への架け橋となるように。

 JAなんぽろ